小さな一歩が大きなアクションに

今日から始めよう　SDGs

政策推進課（内線514）

学校に通えることは 当たり前のこと？

　新年度がスタートしました。入学、進級など、新たな学校生活が始まる方も多いと思います。皆さんの新しい環境での日々が実りあるものになるよう応援しています。

　ＳＤＧｓの目標４は「質の高い教育をみんなに」です。性別、人種、経済力などにかかわらず、だれもが平等に質の高い教育を受けられることを目指しています。世界では約6,700万人、最も多いサハラ以南のアフリカ地域では、約５人に１人が小学校に通えません。その背景には、貧困による児童労働や、紛争、自然災害、学校や先生の不足などが挙げられます。

　日本で暮らす私たちにとって、小・中学校で教育を受けることは当たり前のことだと感じるかもしれません。しかし、災害で学校に通えなくなったり、学校でのいじめや不登校により学習ができなくなったりして、勉強する機会が失われてしまうなど、日本にも課題があります。学べることのありがたさを感じながら、勉強に取り組みたいですね。また、しばらく勉強から遠ざかっている方も、自分らしい生き方や働き方の実現、持続可能な社会づくりのために、学びを再開してみてはいかがでしょうか。

取り組んでみよう！

・持続可能な社会づくりに必要なことについて学んでみよう

・学習支援ボランティアなどに参加しよう

・いじめは絶対にしない

STOP!!　消費者トラブル

生活環境課（内線172）

借金させてまで強引に契約を迫る手口に注意しましょう

　「お金がない」などと言って断っている消費者に対して、借金やクレジット契約をさせてまで強引に契約を結ばせる手口によるトラブルが、20代の若者に多く見られます。こうした手口は、投資ソフトや情報商材など、お金儲けに関する契約で特に目立っています。「儲かるから借金は返せる」と勧誘された場合であっても、それは不確実な話であり、借金を返せる保証はどこにもありません。回収できる見込みがないのに借金を抱えることは、極めてリスクの高い行為です。

　友人や知人から誘われ断りにくいと思っても、「お金がない」という断り方ではなく、「要りません」「やめます」ときっぱり断りましょう。また、借金やクレジット契約の際に、使用目的や職業、年収などを嘘をついて借りるよう指示する手口が見られますが、それは犯罪行為となる場合があります。

　令和４年４月から成人年齢が18歳に引き下げられています。新社会人や新入学生は、悪質業者が狙っていると考え、特に注意しましょう。

トラブルに遭わないために

□借金をしてまで契約するべきものなのか、よく考えましょう
□断る際は「要りません」ときっぱり断りましょう
□嘘をついて借金することは絶対にやめましょう

不安に思った時、トラブルに遭った時は
消費者ホットライン「☎188」に相談

ひとりひとり自分らしく　個性と個性が生み出す調和

ハーモニー

まちづくり推進課（内線326）

大切なわたし、大切なあなた　なくそうデートＤＶ

　１月19日、土岐紅陵高校にＮＰＯ法人「あゆみだした女性と子どもの会」理事長の廣瀬直美さんをお招きし、“デートＤＶ”をテーマにした講演会を開催しました。

　廣瀬さんは、ＤＶに当たる事例やＤＶを防ぐ方法について、生徒によるロールプレイを交えながら紹介し、「ＤＶをする人、される人にならないためには、一人一人が自由に『自分らしさ』を選んで、お互いにそれを大切にすることが大切」だと訴え、ＤＶに悩んでいる人がいたら自分だけで解決しようとせず、周りの大人や相談機関に相談してほしいと呼び掛けました。

　講演を聞いた生徒からは、「ＤＶは結婚している夫婦のイメージがあったけど、学生でも多いことが分かった」「自分はもちろん相手にもＤＶをさせないように対等な立場を築き、いい関係で過ごせるようにしたい」などの感想がありました。

　交際相手からの暴力は、「好きだから」「嫌われたくないから」という気持ちが先立って、自分では暴力と気付けないこともあります。「怖い」「息苦しい」と感じたとき、それはデートＤＶかもしれません。あなた自身がつらい時や周りに悩みを抱えている人がいたら、我慢せず、勇気を出して相談することが必要です。

ＤＶ相談ナビ
はれれば
＃８００８

廣瀬直美さん
平成16年にＮＰＯ法人あゆみだした女性と子どもの会を設立。ＤＶや虐待など、さまざまな問題を抱えた人の相談に関わり、支援を実施している。

ようこそ手話の世界へ

福祉課（内線217）

私の息子

　私の息子は、現在岐阜ろう学校に通っています。高等部２年生で、今後の進路について悩み考えているところです。

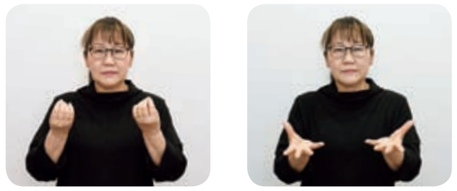
　社会に出た時に、何が一番必要なのかを、親の私たちも一緒に考えています。

　社会が聴覚障がい者に寄り添い、支援することは、もちろん必要なことだと思います。一方、聴覚障害は外見上分かりにくい障害でもあるため、障がいがある本人が社会や周囲に対して「自分は、聴覚障がいがあります。だから、こうしてほしいです」と、自ら説明できることも大切だと感じています。

　聴覚障がい者といっても、耳が聞こえる人には理解できないことが多いと思います。自分なりでいいので、相手とのコミュニケーションの取り方を考え、実践していってもらえたらと思います。

かんたん手話講座「新しいスタート」

「新しい」



両手を軽く丸め、開きながら前に出す

「スタート」

左手の平に指先を前に向けた右手を置き、前に出す